

世界遺産の種類

世界遺産には3つの種類があり、有形の不動産が対象です。

文化遺産

顕著な普遍的価値を有する記念物、建造物群、遺跡、文化的景観など。



自然遺産

顕著な普遍的価値を有する地形や地質、生態系、絶滅のおそれのある動植物の生息、生育地など。



複合遺産

文化遺産と自然遺産の両方の価値を兼ね備えているもの。



世界遺産への道 ~Road to World Heritage~

OPEN!

彦根城は評価基準 iii と iv で
世界文化遺産の登録をめざしています。
詳しくは開いてみよう!

- 日本の「世界遺産暫定リスト」に記載
- 推薦書^{*1}の作成 **NOW!!**
- 国が推薦する資産を決定^{*2}し、ユネスコに推薦書を提出(1年で1か国につき1件)
- イコモス(ICOMOS)^{*3}による調査(約1年半の審査)
- 世界遺産委員会^{*4}で審議(年1回開催)
- 登録決定

^{*1}推薦書とは:ユネスコ世界遺産条約の加盟国が、世界遺産登録にふさわしいと考える候補をユネスコに対して推薦する文書です。世界遺産としての価値とそれを保護・管理するための計画を詳しく説明しています。推薦する候補は、あらかじめ各国の「世界遺産暫定リスト」に記載されている必要があります。
^{*2}推薦する資産の決定とは:文化審議会世界文化遺産部会で推薦候補に選定され、その後、閣議により日本政府としての推薦が決定されます。
^{*3}イコモス(ICOMOS)とは:正式には「国際記念物遺跡会議」。本部はパリにある国際機関(NGO)です。文化遺産保護の原理、方法論、科学技術の応用の研究を行っています。世界遺産委員会の諮問機関として、世界文化遺産登録の調査・勧告、モニタリング活動を行っています。
^{*4}世界遺産委員会とは:世界遺産条約を基盤として組織され、条約を結んでいる国の中から選ばれた21か国で構成されています。加盟国から推薦された案件を審査し、登録などを決定します。

彦根城と周辺MAP 彦根城の周辺には、彦根藩に関連した見所がたくさんあります。



「彦根城世界遺産登録 意見交換・応援1000人委員会」会員募集

彦根城の世界遺産登録に向けて、市民・県民や行政・企業・有識者が一体となって、情報交換を行い、応援する団体です。会員の皆様には、世界遺産に関するセミナーやイベント、委員会の総会などの案内をいたします。ぜひ1000人委員会のメンバーとして、世界遺産登録や文化遺産を活かしたまちづくりへのご賛同をお願いします。彦根市外・滋賀県外の方もご参加いただけます。

入会方法(メール)

タイトルを「1000人委員会申込」とし、下記アドレスまでメールでお申し込みください。氏名、住所、電話番号、メールアドレスをお伝えください。

彦根市文化財課 彦根城世界遺産登録推進室 hikone-wh@ma.city.hikone.shiga.jp

QRコードで
メールが
送れます▶



彦根城 世界遺産へ

おしえて!



HIKONE CASTLE

彦根城は世界遺産登録をめざしています。思いを一つに、みんなで盛り上げていきましょう!



くわしくはスペシャルサイトへ www.hikonejo-worldheritage.jp/

彦根城を世界遺産に 検索



世界遺産とは

世界遺産とは、地球の生成と人類の歴史によって生み出され、過去から現在へと引き継がれてきた、かけがえのない宝物。現在を生きる世界中の人々が過去から引継ぎ、未来へと伝えていかなければならない人類共通の遺産です。

1972(昭和47)年、ユネスコ総会で世界遺産条約(正式名称「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」)が採択されました。この条約は、文化遺産や自然遺産を人類全体のための世界遺産として、損傷、破壊等の脅威から保護し、保存していくために、国際的な協力及び援助の体制を確立することを目的としたものです。現在、世界遺産は1,000件以上が登録されており、条約締結国は194か国です。日本は1992(平成4)年に条約を締結しました。

評価基準(概略)

世界遺産に登録されるためには、「顕著な普遍的価値」の証明のため、「世界遺産条約履行のための作業指針」で示されている次の評価基準のいずれか1つ以上に合致するとともに、完全性や真実性の条件を満たし、締結国の国内法によって、適切な保護管理体制がとられていることが必要です。

^{*}顕著な普遍的価値とは、国家間の境界を超越し、人類全体にとって現代及び将来世代に共通した重要性を有するような、傑出した文化的な意義又は自然的な価値。Outstanding Universal Valueの略OUVとも表記されます。

i 人間の創造的才能を表す傑作	vi 出来事、生きた伝統などとの関連
ii 価値観の交流を示すもの	vii 最上級の自然現象、自然美
iii 文化的伝統などを示す物証	viii 地球の歴史の主要な段階
iv 歴史上重要な段階の建築物などの見本	ix 重要な生態学・生物学的過程
v 土地利用形態、人類と環境との関係の見本	x 生物多様性の最も重要な自然の生息地

^{*}基準(i)~(vi)で登録された物件は文化遺産、(vii)~(ix)で登録された物件は自然遺産、文化遺産と自然遺産の両方の基準で登録されたものは複合遺産となります。

世界遺産に求められること

真実性

完全性

保存管理体制

世界遺産の評価基準など詳しくはスペシャルサイトをご覧ください。



世界遺産としての価値

戦わない城の意義を、世界に発信 ～彦根城を見れば、江戸時代が分かる～

彦根城は、一度も戦闘を経験していない城郭です。

江戸時代、彦根藩の武士たちはその城郭に集まり、領地の安定のため、大名とともに政治に

取り組み、また、必要となる文化活動や武芸に励みました。

やがて、その城は、安定と調和のシンボルとして、仰ぎ見られる存在となったのです。

象徴的な外観

遠くからでも見えるようにつくられました。将軍と同じ城の形が、将軍に認められたことを表現しています。



1 天守(国宝)

城の中心にそびえるシンボル。大きな飾り屋根を複雑に組み合わせたデザインは、遠くからでもよく見えるための工夫です。



御城内御給図(彦根城博物館蔵)

江戸時代には、藩の統治拠点である城郭が全国に約150築されましたが、そのほとんどは、19世紀後半に日本の政治体制が転換して役割を終えた後、取り壊されました。その中で、彦根城は、住民の強い願いによって例外的に保存されることになり、その後も戦災や開発などで失われることがなかったため、彦根藩の政治の中心地として、領地をおさめるための政治の仕組みを示す建造物や遺構が最も多く、良い状態で保存されています。

集約的配置による空間の完結性

政治のための機能が集約して配置され、石垣や櫓、堀で区切られました。内側が特別な空間であることを表現しています。



3 表御殿跡

藩主の住まいで、政治の方針決定や儀式をすところ。彦根城博物館の地下に遺構が保存されています。



4 埋木舎

藩主の跡継ぎ以外の男子を育てる屋敷で、井伊直弼が暮らしたところです。屋敷全体の建物や庭が当時のまま残っています。



5 槻御殿

表御殿に次ぐ2番目の御殿です。江戸時代の建物が残っている御殿は、全国でもわずかしかなく貴重です。

6 重臣屋敷跡

天守と御殿を取り囲む形で、藩主とともに政治を担った重臣たちの屋敷が配置されました。旧西郷屋敷長屋門(写真)は、現存する全国の長屋門の中で最大級です。

江戸時代の政治体制が城という形に表れるまで

戦国時代/安土桃山時代	大名の家臣も、自らの領地と城を持っていた。
1600 関ヶ原の戦い	戦いに敗れた西軍の武將の領地に、勝利した東軍の武將が配置される(各地に藩がつくられ始める)。
1603 徳川家康が征夷大将軍になる(江戸幕府の設立)	各藩の拠点として、新しい城郭が建造される。特に重要なものは、幕府の直接の命令で、たかさんの大名を動員してつくられることにより、徳川スタイルの城郭が全国に広がる。
大坂夏の陣/豊臣氏が滅びる	幕府による大名の統制が始まる。
1615 一国一城令	原則として、1つの藩の領地につき、城郭は1つだけになる。大名の家臣は自分の城郭を持てなくなる。
武家譜法度の制定	幕府の命令がなければ藩の軍事力を動かすことができなくなる。各地の大名は軍事動機を失う。城郭の修理には幕府の許可が必要となったため、城郭の基本的構造が変わることがなくなった。
1635 参勤交代の制	全ての大名が1年ごとに江戸と国元を行き来することにより、大名は幕府の組織体制と統治の仕組みを学び、藩の政治に取り入れた。また、幕府で将軍から大名に行われる儀礼を、国元でも大名から家臣に向けて行った。

幕府の方針に従わない大名は、取り潰されたり(改易)、領地を変えられたり(転封)したが、彦根藩主井伊家は将軍を輔佐する特別なポジションの大名だったため、幕府の理想を体現し続け、江戸時代をとおして彦根を治めた。

彦根城を守り伝えるために

伝統文化の継承



茶道

江戸時代の武士たちにとって、茶道は、重要な教養でした。中でも、井伊直弼公は茶道を極め、石州流の中に一派を立ち上げました。その著書「茶湯一会集」の序文に記された「一期一会」。現在も多くの場面で引用されるこの言葉は、茶道を通して直弼公の理想を伝えています。



写真は彦根城博物館わくわく体験スクールの様子

地域のさまざまな取り組み



ボランティアガイドの活動

彦根城を訪れるお客様に見どころを解説。天守などの建造物ほか、石段のつくり方など城づくりの技術を活かしながら、260年間平和な時代が続いたことの素晴らしさを伝えています。



世代間学習

城下町にある小学校の児童と大学生が、一緒に彦根城の世界遺産登録のために自分たちができることを話し合うなど、世代を超えたつながりが広がっています。



能・狂言

能は、江戸幕府の式楽(公的な儀式で行う芸能)です。幕府が様々な儀式で能を上演したため、各地の藩もこれにならって能を行い、能役者を召し抱えました。また、城の中に能舞台がつくられることもあり、彦根城博物館内に残る能舞台は、今でも現役で使われ、能の上演が行われています。



彦根商工会議所寄附講座 滋賀県立大学 「世界遺産のまちづくり人づくり」の様子



表御殿能舞台

能は儀式のときに上演され、藩主と家臣とともに鑑賞しました。本物の能舞台が城の中に残っているのは、全国で彦根城だけです。

2 佐和口

中堀に面し、彦根城の表門に通じる重要な入口でした。堀、石垣、櫓による象徴的な外観がよく見てとれる場所です。

儀礼のための空間構造

幕府との関係や上下の秩序などを繰り返し確認するための各種の儀礼空間が設けられました。政治理念を共有するための幕府の仕組みを、各藩が取り入れていました。



7 玄宮園

江戸時代の絵画のままの景色が残る大名庭園です。美しい景色を楽しむだけでなく、藩主と家臣が和歌、茶の湯、武芸などを実践するところでした。



8 表御殿能舞台

能は儀式のときに上演され、藩主と家臣とともに鑑賞しました。本物の能舞台が城の中に残っているのは、全国で彦根城だけです。



田植え

玄宮園の中には、小さな田んぼがあります。農村の景色を再現し、藩主自らが田植え、稲刈りを行い、農民の苦勞を知り、五穀豊穡を願う、大切な行事の舞台でした。明治以降、長らく荒れ果てていましたが、2012年に復元整備が行われ、以降、市民の有志を募り、田植え、稲刈りが復活しました。市民みんなで、豊かな実りに感謝しています。



能・狂言

能は、江戸幕府の式楽(公的な儀式で行う芸能)です。幕府が様々な儀式で能を上演したため、各地の藩もこれにならって能を行い、能役者を召し抱えました。また、城の中に能舞台がつくられることもあり、彦根城博物館内に残る能舞台は、今でも現役で使われ、能の上演が行われています。

